

事務事業名		湾内ごみ処理事業		<input type="checkbox"/> 実施計画登載事業		<input type="checkbox"/> 総合戦略登載事業																															
政策体系	政策名	0 6 自然豊かな環境の保全と創造		事業期間		予算科目																															
	施策名	2 0 自然環境の保全		区分		会計	款 項 目 事業																														
	基本事業名	0 2 自然環境保全活動の推進		単年度繰返		01	04 02 01 0200																														
根拠法令		-		※期間欄に開始年度を記入																																	
所属	部課名	市民生活部市民環境課		【開始年度】		事務事業区分																															
	課長名	鈴木 康代		平成5 年度～		E 一般																															
	係名	環境衛生係	電話	0192-27-3111																																	
	担当者	千葉大樹	内線	125																																	
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)																															
<ul style="list-style-type: none"> 県所有の清掃船「さんご丸」を定期的に運航して、大船渡湾に浮遊するごみを回収処理等する。 事業費は、海面清掃業務委託料、陸揚廃棄物運搬処理委託料として支出される。 清掃業務は、県から市が業務を受託し、さらに市が業者に再委託する。また、市が陸揚したごみを専門業者に運搬処理を委託する。 清掃業務は、ごみ回収(陸揚げあり、陸揚げなし)、車両からの陸上点検(ごみ回収なし)、船体管理とし、各月ごとの計画に基づき実施する。また、大雨など異常出水時で、計画外運航が必要な場合は別途臨時運航する。 事業の概要は①県との大船渡港海面清掃業務委託の契約締結②大船渡港海面清掃業務の業者への再委託③陸揚ごみ運搬処理業務の業者への委託④県への業務完了報告と委託料の請求 						<table border="1"> <tr><td>総投入量(千円)</td><td>国庫支出金</td><td></td></tr> <tr><td>事業費</td><td>都道府県支出金</td><td></td></tr> <tr><td>財源内訳</td><td>地方債</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>その他</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>一般財源</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>事業費計(A)</td><td>0</td></tr> <tr><td>人件費</td><td>正規職員従事人数</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>延べ業務時間</td><td></td></tr> <tr><td></td><td>人件費計(B)</td><td>0</td></tr> <tr><td></td><td>トータルコスト(A)+(B)</td><td>0</td></tr> </table>		総投入量(千円)	国庫支出金		事業費	都道府県支出金		財源内訳	地方債			その他			一般財源			事業費計(A)	0	人件費	正規職員従事人数			延べ業務時間			人件費計(B)	0		トータルコスト(A)+(B)	0
総投入量(千円)	国庫支出金																																				
事業費	都道府県支出金																																				
財源内訳	地方債																																				
	その他																																				
	一般財源																																				
	事業費計(A)	0																																			
人件費	正規職員従事人数																																				
	延べ業務時間																																				
	人件費計(B)	0																																			
	トータルコスト(A)+(B)	0																																			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
前年度実績(前年度に行った主な活動)	名称 単位
清掃船さんご丸の運航により 93.4㎡のごみを回収した。また、湾内ごみの陸上点検や船体管理を行い、漁船等が安全に運航できるよう湾内の維持管理を行った。	ア ごみ回収(陸揚げあり)運航計画日数 日
今年度計画(今年度に計画している主な活動)	イ ごみ回収(陸揚げなし)運航計画日数 日
年間延べ46日間運航し、ごみの回収にあたり、必要に応じて陸上からの回収も行う。整備、点検等の管理については、延べ11.5日間あたる。	ウ 船体管理計画日数 日
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)
大船渡湾 清掃船「さんご丸」	名称 単位
	カ ごみ回収(陸揚げあり)運航日数 日
	キ ごみ回収(陸揚げなし)運航日数 日
	ク 船体管理日数 日
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)
湾内に浮遊するごみが回収される。 湾内に浮遊するごみを回収し、処理する。	名称 単位
	サ 苦情件数 件
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)	シ ごみ回収要請件数 件
港湾の環境負荷を軽減し、水質を保全する。	ス

(2) 総事業費・指標等の推移

投入量	単位	年度						
		2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(実績)	6年度(目標)	7年度(目標)	
事業費	国庫支出金	千円	1,694	2,082	2,000	1,537	2,202	1,554
	都道府県支出金	千円	4,062	4,199	4,045	4,178	4,179	4,200
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	その他	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	729	522	501	384	551	389
	事業費計(A)	千円	6,485	6,803	6,546	6,099	6,932	6,143
	人件費	人	1	1	1	1	1	1
延べ業務時間	時間	200	200	200	200	200	200	
人件費計(B)	千円	800	800	800	800	800	800	
トータルコスト(A)+(B)	千円	7,285	7,603	7,346	6,899	7,732	6,943	
⑤活動指標	ア	日	39	39	39	37	37	37
	イ	日	8	7	7	7	7	7
	ウ	日	6	6	6	6	6	6
⑥対象指標	カ	日	42.5	43	43	39	39	39
	キ	日	12	10	7	8	7	7
	ク	日	8	11	6	6	6	6
⑦成果指標	サ	件	0	0	0	0	0	0
	シ	件	2	0	0	0	0	0
	ス							

事務事業ID	0082	事務事業名	湾内ごみ処理事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	大雨時に盛川をはじめとする市内の河川等からヨシガヤ等のごみが湾内に流入し、カキ養殖筏や船舶航行の障害となることから、漁業者等が出動し回収作業に協力していただいたが、大船渡港港湾整備計画に合わせ、漁業者等からの清掃船整備の要望を受けて平成5年4月に清掃船が整備された。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	清掃船を配備するにあたっては、大雨出水時だけでなく、通常時も湾内に浮遊ごみがないよう運航することで配備計画が進められ、配備後は、週1回程度運行することとしている。なお、大雨出水時においては、清掃船の運航とともに、漁業者等の協力や港湾、漁港管理者等により浮遊ごみの回収・処分も行われている。 また、平成16年度から盛川や立根町川で、関係機関等が立ち枯れたヨシガヤの刈り取り作業をしており、漁業者や清掃船運航委託者からは、出水時におけるヨシガヤなどの流出ごみの量が少なくなったとの声が寄せられている。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	漁協等漁業関係者からは、湾内の隅々まで清掃作業を実施してほしいとの要望があり、特に、赤崎側だけでなく大船渡町や末崎町方面まで巡回して、ごみ回収にあたってほしいとの要望が寄せられることもある。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ▽ 理由・内容 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつかか？意図することが結果に結びついているか？ 大船渡湾内の浮遊ごみ等を回収することにより、養殖棚等への影響をなくすとともに、港湾の環境保全と漁船等の安全運航が図られる。
	② 公共関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ▽ 理由・内容 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、一般廃棄物は市町村が処理等を行わなければならないとされている。なお、清掃船は、大船渡港港湾整備計画時において、漁業者等からの要望により配備・運航されたものであり、港湾管理者である県と市で運営管理費を負担することとした経緯がある。
	③ 対象・意図の妥当性	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ▽ 理由・内容 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 県との海面清掃業務委託契約において、委託内容は清掃船による大船渡港港湾区域内の清掃と規定されており、対象と意図は妥当である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ▽ 理由・内容 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 海上からでは効率的に浮遊ごみの発見や回収ができない場合には、必要に応じて陸上からの回収も行っており、確認できたごみのほとんどを回収できている。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある ▽ 理由・内容 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 清掃船の運航は漁業者からの要望でもあり、また他に湾内の浮遊ごみを効率的に清掃する手段が無いので廃止・休止はできない。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 浮遊ごみ確認のための運航は、清掃船への乗船人員を減らすことで効率化を図っており、また、車両巡回による陸からの方法も取り入れていることから、これ以上の削減は困難である。また、回収ごみの処理委託は量に応じた単価契約としており削減は困難である。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ▽ 理由・内容 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 運航・維持管理、回収ごみ処理のすべての業務を委託しており、削減余地はない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ▽ 理由・内容 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 大船渡港は、県管理の港湾と漁港、市管理の漁港であり、その中に流入するごみは、原因者不明の不特定ごみであることから、受益者負担を強いることができない。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																				
1 現状維持	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上				維持		●	×	低下		×	×	湾口防波堤の復旧とともに、海水の流れなど湾内の状況が刻々と変化しているが、湾の環境保全を図るため、浮遊ごみの早期の把握に努め、円滑な運航・回収を行っていく。また、清掃船の老朽化により、修理を必要とする故障が増えてきているが、県及び運航受託者と情報を共有し、早期に対応してできるだけ計画通りの運航ができるように努めていく。
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上																						
維持		●	×																			
低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
1 現状維持	湾内の海岸漂着物や漂流物を放置することは湾内の水産業にも影響を与えることから、今後も収集・処理について関係機関や団体との連携・協力を図りながら実施していく。